

巨石積み砂防文化の歴史と登録文化財 岐阜と今庄山地砂防の交流 砂防文化を語る会 瀬戸と古木で開催

高倉谷川砂防堰堤の会(会長伊藤武男)と田倉川と暮らしの会(会長伊藤喜右エ門)の共催。岐阜県、福井県、南越前町、福井県砂防ボランティア協会、環境文化研究所の協力、日野川流域交流会の後援で6月28、29日開催した。初日は、午後1時瀬戸集落センター(福井県南越前町瀬戸)前に子供も含め都市住民30名、古木から6名、瀬戸から10名の46名参加した。伊藤求瀬戸区長の歓迎の挨拶、伊藤武男会長から展示した地形図や写真を示しながら高倉谷川の歴史的砂



防施設群の説明紹介が行われた。(写真上) 高倉谷川砂防ハイクは、小型バスで立成口まで行き、立成2号 立成号 大成号 大成口 谷中 西高倉谷号の各砂防堰堤コースをハイキング、巨石砂防文化を楽しんだ。

防施設群の説明紹介が行われた。(写真上) 高倉谷川砂防ハイクは、小型バスで立成口まで行き、立成2号 立成号 大成号 大成口 谷中 西高倉谷号の各砂防堰堤コースをハイキング、巨石砂防文化を楽しんだ。



立成2号で記念写真(写真上 撮影谷祐治)。このコースはいつ訪れても美しく安全に整備されている。清流の澄んだ響きを受けながら巨石積み砂防堰堤の「用の美」を鑑賞できる。ハイクのあとリトリートくらに移動しフォーラムを開催した。岐阜県から参加の砂防課技術職員と砂防ボランティア役員が岐阜県の砂防事業と羽根谷砂防、輪中堤防について発表。高倉谷川砂防堰堤の記念碑に彫られている主任大屋卯吉郎について、木曾川文庫中村氏の情報を報告した。それによると、岐阜県可児市に木曾川砂防工事の記念碑がある。碑文には、明治2年2月5日工事主任江平幸造、工事係第四区土木監督署雇大屋卯吉郎が刻まれている。明治27年土木監督署官制が改正され、第四区土木監督署の監督管内は、三重、愛知、静岡、岐阜、福井とされている。当時お雇いだった大屋は、その後主任となって明治35年頃高倉谷川砂防工事に赴任したと思われる。大屋は、木曾三川改修で活躍したお雇い外国人ヨハネス・デレーケと同時期に木曾川改修に関わっていることから、高倉谷川の石積み堰堤はその影響を受けていると推測できる。ルーツが見えてきた。しかし、アカタン砂防と比べると明らかに異なるデザインである。しかもアカタンには記念碑が見つからない。謎解きの興味が増してきた。南越前町学芸員は文化財の指定と登録制度に

ついて説明。今庄南部山地一帯に点在する歴史的砂防施設全体を砂防パークとしてとらえることも必要だ。文化財登録には地元住民の協力と保全と利活用活動の継続が重要だと助言した。伊藤喜右エ門会長は、相互に交流を深め連携して活動していきたいと述べた。伊藤武男会長は、文化財登録は住民の願望と強調。参加者に協力を呼びかけ実現を要望した(写真下)。伊藤区長は参加者の質問に答え、瀬戸の木地師と民俗文化を紹介した。



話題になった文化財を整理してみよう。有形文化財は、明治の砂防施設、塩のみち古道、高倉谷峠、マンガン鉱山跡、廃村跡 無形文化財は、木地師 文化的景観は、集落の家並み 民俗文化財は瀬戸の23夜、もの引き唄 天然記念物は、庭園、史跡、ブナ群生林、高倉谷川渓谷と滝、田倉川源流、2億5千万年前海に棲息していた原生動物有孔虫フズリナ化石産地などである。まだまだ埋もれている。夜の交流会では、奥山で採れた山菜瀬戸料理が話題になった。先人達の砂防治水が、水源保全と山の恵みをもたらしていると感じながら砂防交流を深めた。宴高まりゴンパ音頭とキヨモン踊り手による名物ヤンシキ踊り、都市住民も踊りに加わり盛り上がった。



翌29日、大雨のなかアカタン砂防ハイクを決行した。雨の日は一段と見応えがある。「砂防技術者は雨の日に限る」と岐阜県砂防ボランティアが解説。写真上は大平ミズヤ上堰堤。



イベント終了後高倉谷川砂防堰堤の会員は、写真や活動報告をアカタン砂防エコミュージアムコア施設(リトリートくら)に常設展示した。(写真左)